



保護者や地域から信頼される学校の実現を目指した効果的な組織マネジメントの工夫

～改革と信頼の好循環を目指して～



位置



群馬県

吉岡町は県のほぼ中央に位置し、榛名山の南東の山麓から利根川にかけて緩やかに展開している総面積2,046haの町です。北は渋川市、西は榛東村、東及び南は前橋市に接しています。

歴史

利根川西岸の大規模な河岸段丘上には、縄文時代から人々が住み、古代に築造された古墳が点在しています。本町は、近世の江戸時代に街道沿いの宿場町として発展しました。昭和30年4月に明治、駒寄両村が合併し、吉岡村が誕生しました。そして、平成3年4月には町制が施行され吉岡町となりました。

人口 世帯数



住民アンケートから

吉岡町が住みやすいと感じるところベスト3

1. 道路・交通アクセス
2. 買い物等、日常生活の利便性
3. 前橋・高崎に近く、働く場が多い

吉岡町は、近年、上毛大橋や吉岡バイパス等の幹線道路網の整備が進んだことで交通アクセスが向上し、大型店の進出や人口増加が続いています。現代の人口減少社会においてもなお高い人口増加率を維持する全国的にも稀な町です。





I はじめに

保護者や地域から信頼される学校の実現を目指した効果的な**組織マネジメントの工夫**

運営

~改革と信頼の好循環を目指して~

資料中のこの枠のデザインは↓

キーワード

です。





I はじめに

仮説

改革

成果

集約・分析

協働で...

信頼

校長が核...

伝達・周知

自信

評価の集約

評価・整理

歩み寄り

リーダーシップ
裁量
経営方針

私の場合...



歩み寄り

3 運 営

- (1) 新しい時代 Society5.0 を生き抜くための教育
- (2) コロナ下での教育活動
- (3) 業務改革

1 人づくり

- ① 職員理解
- ② 傾聴
- ③ 受容する
- ④ 受容の輪を広げる
- ⑤ さらに良くなる助言
- ⑥ 自らも動く
- ⑦ 希望の配置
- ⑧ 賞賛、感謝

2 組織づくり

- (1) 職員
 - ①職員理解のための情報網と参観
 - ② スリム化の様々な提案
(教育課程・部会・会議・部活等)
 - ③人材育成...ベテラン・若手OJT
 - ④適材適所 (スキル・意欲)
 - ⑤年齢や経験のバランス
- (2) PTA役員
 - ①スリム化
 - ②業務軽減

土 台





1 人づくり

- ① 職員理解...とはいっても限界が。業務改善が進むほど。徘徊。マメでもない。
- ② 傾聴...だからこそ相談してくれる職員の話をしっかり聞く。
- ③ 受容する...否定しない。希望に添うよう一緒に考える。相談が増える。
- ④ 受容の輪を広げる...管理職、教務、学年主任...。行きつくところは児童。
- ⑤ さらに良くなる助言...受容して管理職として努力。その代わり...。
- ⑥ 自らも動く...得意なこと。できること。行政が動かないなら...。
- ⑦ 希望の配置...受容的。人材育成の視点。要所を固める。私情禁物。
希望に添わない配置者には特段の配慮（気持ちの問題）。
- ⑧ 賞賛、感謝...努力・苦労・協力への慰労。手当を惜しまない。

課題：多様な職員が一丸となる難しさ...

元々の性格。苦境に立ったときの立ち振る舞い。

人たらし or 努力

カリスマ性ともいうか

残念ながら私は...

努力と忍耐あるのみ

けれども少なくとも孤独ではない





2 組織づくり

(1) 職員

① 職員理解のための情報網と参観

② スリム化の様々な提案

- ・教材研究・事務処理時間の確保→教育課程の大幅な調整（「運営」の項）
- ・部会削減...R3 教科部会なしでスタート→体育・図工復活（臨時的）
- ・会議改善...月1回職員会議(60m)、毎週打合せ(15m)、校内研修＝実務(60m)

※周知のための連絡手段確保（LINE Works）

- ・部活削減...マーチングのクラブ化、クラブ陸上不参加

③ 人材育成...ベテランの価値、若手OJT、校内研修活用、採用試験への配慮

④ 適材適所...人材育成、スキル、適正、意欲

⑤ 年齢や経験のバランス...中堅の登用、ベテランの活用

⑥ 鶏たたきしない...会議前の熟議、発案について受容、改善点を一緒に検討

(2) PTA役員

① スリム化...専門部人数削減、学年部廃止

② 業務整理...学年行事廃止、会議減、会長業務軽減、会議後の学習参観可

郡PTAも同様に会議減（幹事校）、行事手伝いはボランティア募集

やるなら今

課題：初年度は手探り。上手く回りはじめると異動...

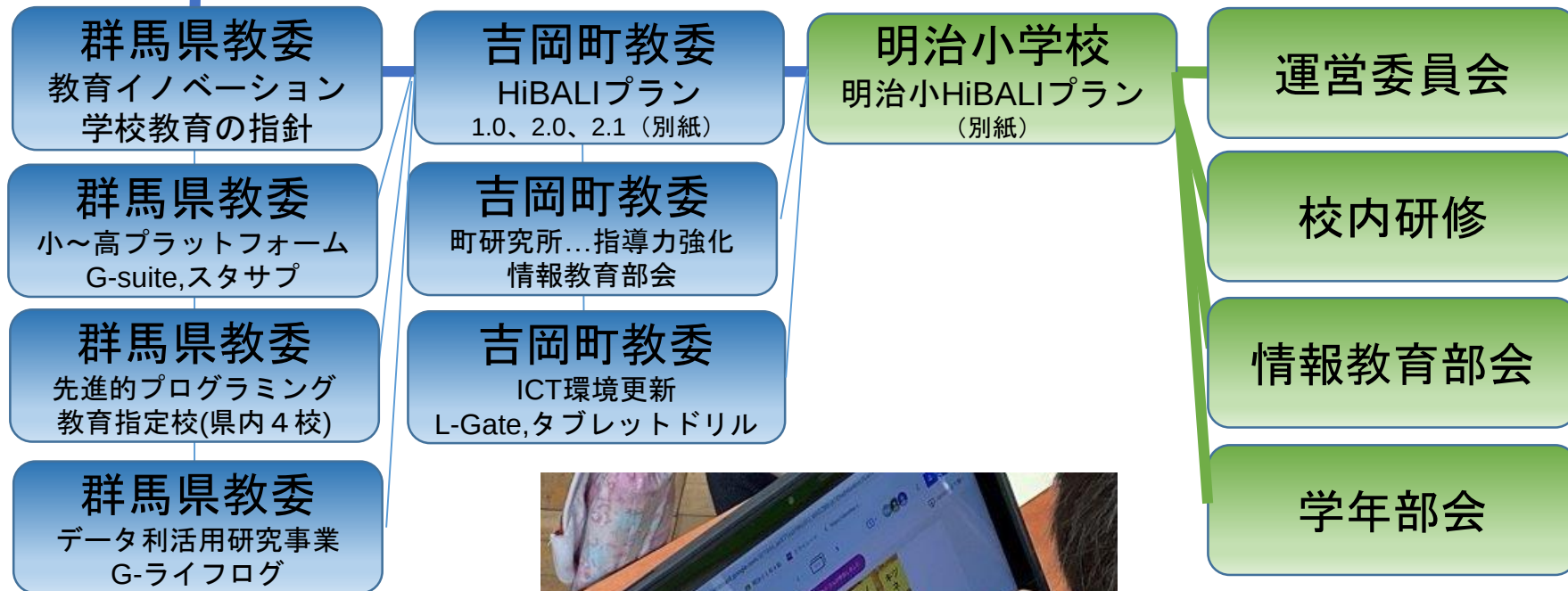




(1)新しい時代Society5.0を生き抜くための教育



文部科学省 GIGAスクール構想





例) 明治小HiBALIプラン

令和3年度 明治小HiBALIプラン(ICT活用 of 取組【概要版】)

1 授業実践

校内研修:「はばブラⅡ」ICT活用Versionをもとにした授業改善

個別最適な学び

指導の個別化

- ・デジタル教科書の活用→音声・映像・画像
- ・スタディサプリで取組状況の即時把握
→個別指導・助言・賞賛→既習事項の復習へ
→発展学習へ
- ・ミライシードで考えを即時把握→共有

学習の個性化

- ・Google Workspaceで学習の整理
→児童の発表・共有
(スライド、ジャムボード、ドキュメント等の選択)
- ・Formsで練習問題作り→学び合い
- ・Formsで授業の振り返り→共有・次時のめあて※1
- ・スライドで生活科観察日記→蓄積

家庭等、授業以外での学習支援

【家庭学習の習慣化】

- ・スタディサプリやミライシードを活用したドリル学習
- ・Classroomを活用した学習記録の蓄積
(Classroom+スプレッドシート)

【宿題の個別化】

- ・スタディサプリの宿題配信とタイムラインを利用
→個別にメッセージ・個別に賞賛
- ・ドリル型学習支援ソフト(ドリルパーク・東京書籍)

協働的な学び

自らの考えを広げる

- ・先進プログラミング教育実践
(マイクロビットビズケット)
(IchigoDyhook, IchigoDake)
- ・ミライシードで意見交流(道徳・学活)
- ・ジャムボードでグループ学習
(算数・社会・理科など)

個性の発揮と自己肯定感の高揚

- ・Classroomで導入・振り返り問題
- ・ミライシードで意見の共有、児童が安心
できる発表(名前表示・非表示)
- ・スライドでプレゼン発表(社会・理科・生活)
- ・遠隔地との交流による多様な学び
- ・Meetで合唱・合奏交流発表(駒小)
- ・Meetで英会話(別室ALT)



※1授業の振り返り



※2清潔習慣検査

2 校務関係

業務効率化で教材研究時間の確保

校務のデジタル化

- ・家庭からの欠席・遅刻・早退連絡
(Forms+スプレッドシート)
- ・家庭調査票
(スプレッドシート→Formsへ移行予定)
- ・学校評価の配信と集約
(Forms+スプレッドシート)
- ・生活習慣チェック年3回
(スプレッドシート)
- ・宿題記録カード毎日(スプレッドシート)
- ・児童集会・栄養教諭による食育指導
(Meet)
- ・親子通学路点検(Forms+カメラ)
- ・PTA総会決議(Forms)
- ・保健関係書類(校務支援ソフト)
- ・服務規律確保チェック(Forms)
- ・校内研修アンケート(Forms)
- ・企業と連携したオンライン研修
(リクルート等)
- ・週案リアルタイム更新(スプレッドシート)
- ・Gライフログ
(清潔習慣検査※2・なやみアンケート)
- ・校内外の会議(Meet)

3 その他のおもな活用

児童・家庭とつながり続ける

- ・リモート「教育相談」・「学級閉鎖」・「朝の会」・「学習参観」まん延防止措置期間中、毎日配信(Meet)
- ・欠席児童との相談・連絡(Classroom)
- ・学習保障(スタディサプリの宿題配信とタイムライン)
- ・国語・算数ハイブリッド授業(教科担当導入とリモートで授業を遅れさせない双方向な学び)
- ・ハイブリッド授業(担任不在でも自習なし)



(1) 新しい時代Society5.0を生き抜くための教育

①吉岡町HiBALI1.0

環境整備 (H31中)

- 児童専用Wi-Fi回線
- 65インチ大型モニター
- クロムブック (Wi-Fiタイプ)
 - ・小1～小3 10インチ(左)
 - ・小4～中3 12インチ(右)
- アプリ
 - ・スタサプ (小～高で県推奨)
 - ・ミライシード
 - ・タブレットドリル 等

端末について...導入当初から持ち帰りを想定。
家庭学習での活用。不具合続出。





改革 3 運営

(1) 新しい時代Society5.0を生き抜くための教育



② HiBALI2.0 (H31～)



小1 保護者タブレット配布と設定



4年算数 考えを共有する場面



オンライン始業式、読み聞かせなど



全家庭一斉オンライン配信テスト

アナログとの上手な使い分け



送信側教室



受信側教室

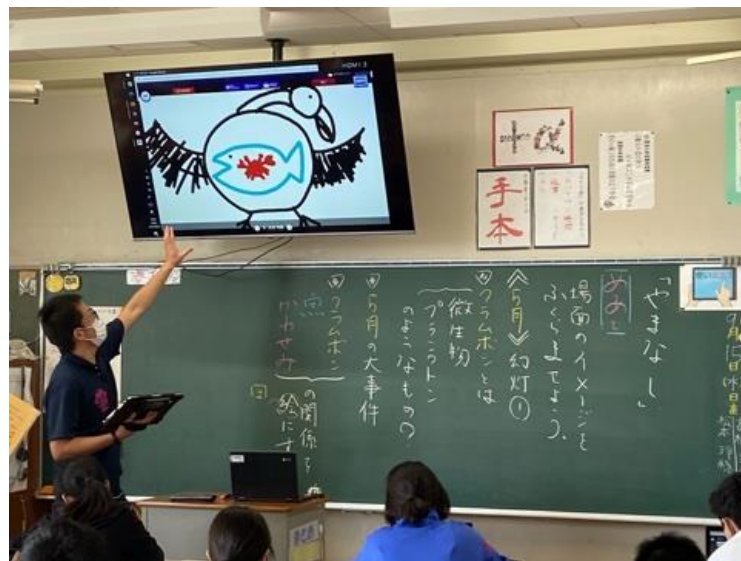
5年ハイブリット相互交流授業



←給食時食育指導 2校同時配信

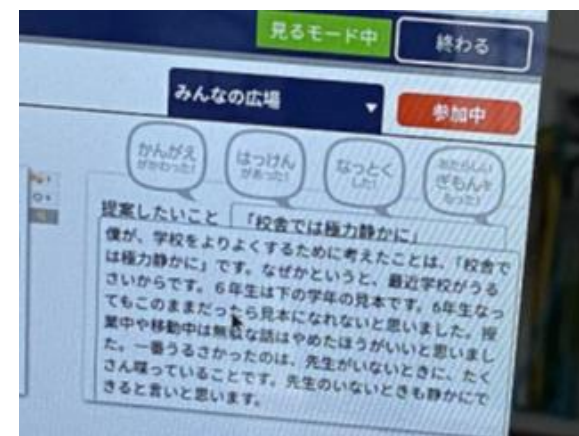
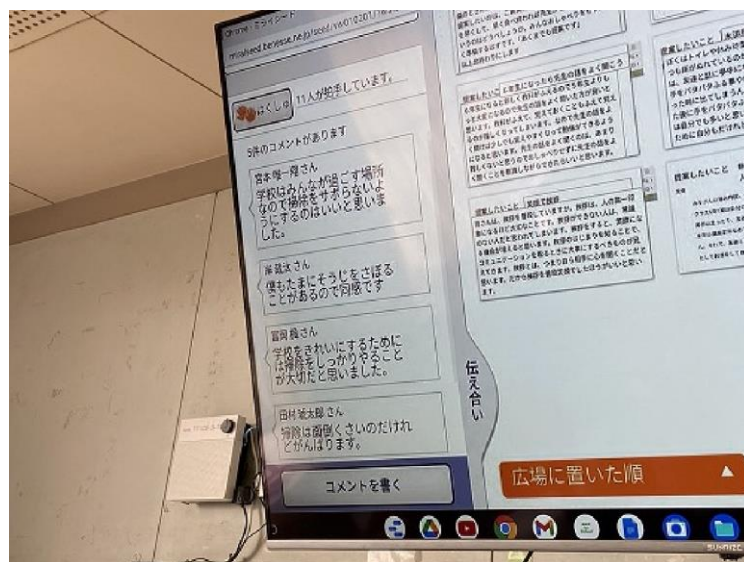


③HiBALI2.1への挑戦 (R4~)



幅跳び...計測、めあて、ふりかえり、評価 (各段階で動画撮影)

共有(オクリンク)→個々思考の共有→思考力・共感・賞賛



対話的で深い学び

共有 (ムーブノート) ...児童同士の評価や賞賛



改革 3 運営

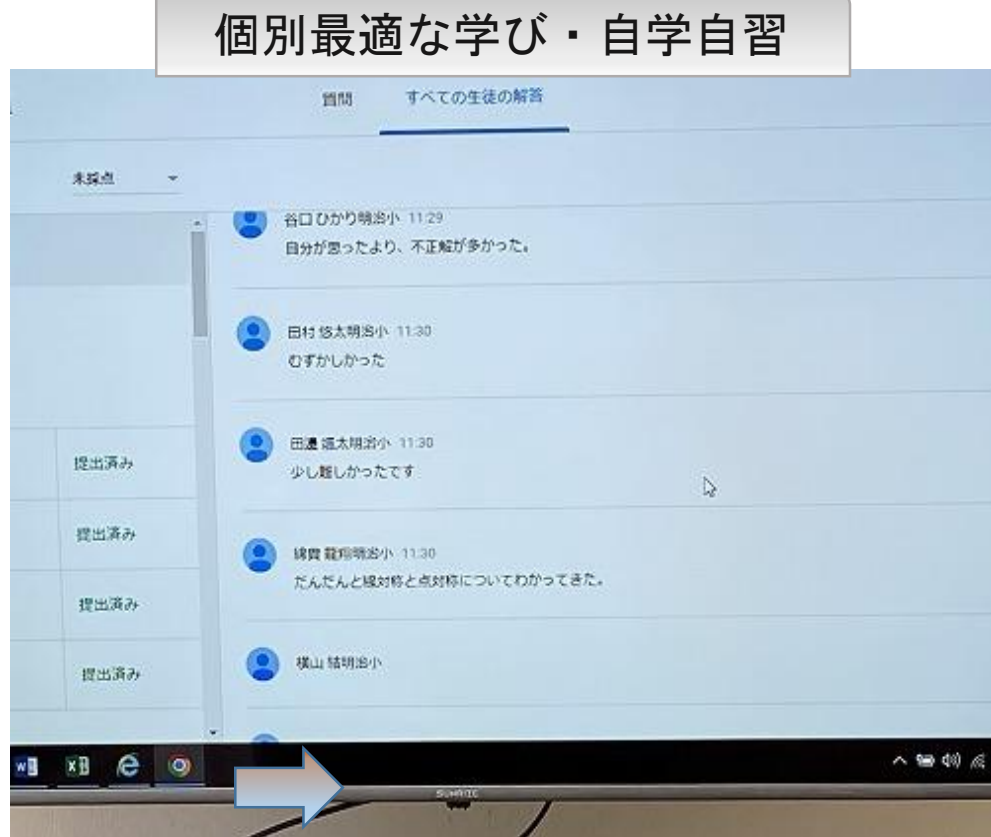
(1) 新しい時代Society5.0を生き抜くための教育

③HiBALI2.1への挑戦 (R4~)



学級閉鎖での授業（朝の会～6校時～帰りの会）

学習保障（欠席・閉鎖・特支）



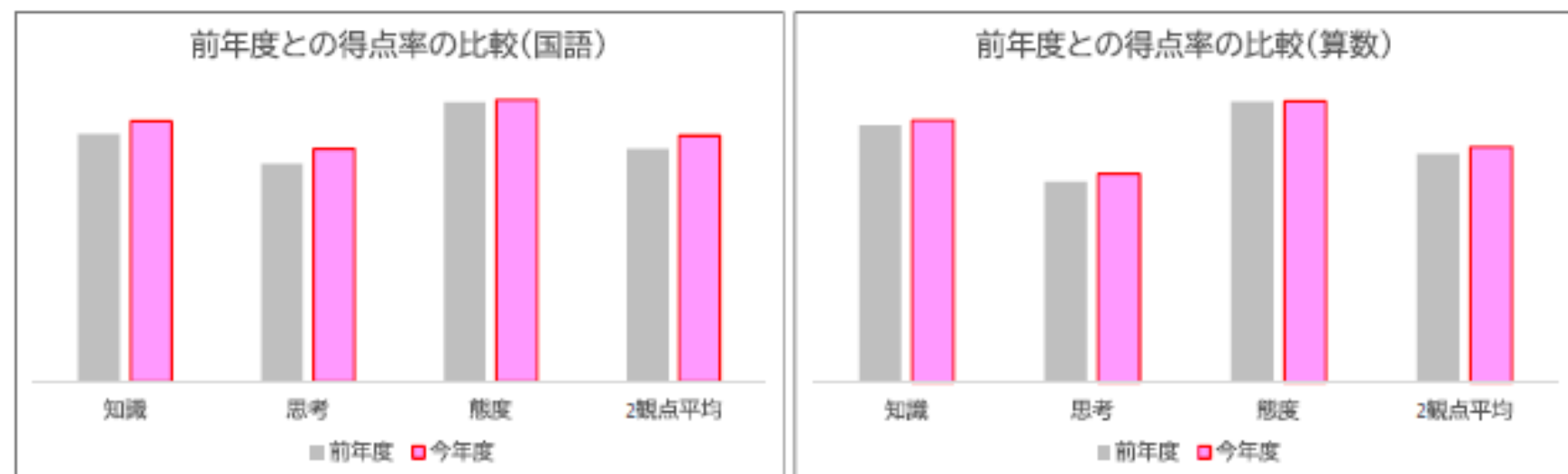
家庭学習：スタサプ+Classroom（アナログ・デジタルでの個別支援）
→ 自学自習に発展

←特支(知)...タイピング練習、ドリルパークなど。
※自情は使用の約束づくりを要注意。

新しい教育の具現化・可視化

明治小学校の学力が向上しています

令和3年度の標準学力検査CRTの全校平均



標準学力検査CRTテスト(図書文化)は、1年間の学習内容の定着を知り、今後の学習にいかすことを目的に今年度は2月1日に実施されました。

CRTテストは、絶対評価型テスト(目標の達成状況を測定するテスト)なので、全国や他校と比べるような相対評価ではなく、例えば、前年度と今年度の同一集団でどのくらい伸びたか分析するのに向いていると言われています。

【全校】

上のグラフのように、前年度(令和2年度)と今年度(令和3年度)の結果を比較すると、国語と算数の全ての観点で得点率が上がりました。国語の「知識」3.7ポイント、「思考」は前年度のから4.3ポイント上がりました。算数の「知識」1.4ポイント、「思考」は2.3ポイント上がりました。特に、2教科とも「思考」の得点率が上がっています。

「思考」とは、知っていることや理解していることから、考えたり、使ったりすることです。「思考」は、得点率が上がりにくい傾向にあり、これからの学習に必要なことだと言われています。

【1年生】

初めてのCRTテストのため前年度と比較はできません。全国比では、国語「知識」と算数「知識」が全国を上回っていました。

【2年生】

得点率が前年度と比べ、国語の「思考」は14.7ポイント上がりました。算数の「思考」は6.4ポイント上がりました。

【3年生】

前年度と同様に、国語と算数の「態度」は、8割を超える得点率でした。

【4年生】

得点率が前年度と比べ、国語の「知識」は15.4ポイント、「知識・思考の平均」は9.4ポイント上がりました。

【5年生】

得点率が前年度と比べ、国語の「思考」は13.4ポイント上がりました。算数の「知識」は2.4ポイント上がりました。

【6年生】

得点率が前年度と比べ、国語の「知識」は7.6ポイント、「思考」は3.6ポイント上がりました。算数の「知識」は3.2ポイント、「思考」は9.7ポイント上がりました。

◎各学年の結果から、次のようなことが考えられます。

①調べ学習やスライドなどで情報を扱ったり、まとめたりする活動でICTを活用してきたことにより、多様な情報を取捨選択する機会が増えたと考えられます。

→ 情報の比較が容易になり、学習にも反映されたのではないのでしょうか。
(情報の比較だけでなく、概要の把握や思考の整理にもつながったと思われます)

②スタサブやミライシードなど、ICTの学習が増えたことで学習への抵抗感が減り、学習への意欲が上がったことで、各学年での学力が向上したのではないのでしょうか。

③国語で新しい文章を読むことや、算数の文章問題など、多様な問題に触れる機会が増えたことで、CRTのような実践的な問題にも対応できる素地が作られたと考えられます。

*コメント…これまでの明治小勤務でほぼ全学年で学力が身についたのは、平成13年度から三年間、基本的生活習慣確立の研究を実践したとき。今回の結果も、学力を高めるための実践ではありませんでした。なのにこの結果。アナログも大切にしながらデジタルとの切り替えを上手にしたことで集中力の持続が図れました。また、これまではベテラン教師でも難しかった「個別対応」「協働的授業」「深い学び」がICT活用によって手の届くところにあります。このことは児童と家庭、学校が丸となって取り組んだことによるかなり大きな成果です。来年度は端末・アプリの使い方や効果についてさらに磨きをかけたいと考えています。ご協力をお願いいたします。山崎



④HiBALI3.0 その先へ

政府全体の取組



県データ利活用研究事業



思考の共有と協働

教育データ利活用

- ・ 高知県、奈良県などで先進的取り組み。Google協働。
- ・ 群馬県はR3よりG-ライフログを試験的運用

教育DXの平準化

学びと社会の連携促進

- ・ EdTech: Education(教育)×Technology(科学技術)
- ・ STEAM: 科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、リベラルアーツ・教養(Arts)、数学(Mathematics)を活用した文理融合の課題解決型教育。

GIGAスクール構想

端末・周辺機器・ネットワーク整備、プラットフォームの整備、指導支援者



課題： 臨時休業・感染症対策・学習保障

- 概要
- (1) マニュアル、ガイドライン整備...県・町の変更と同時に更新、厳し目
 - (2) 密回避、対応・指導徹底、行動自粛、人流抑制...こまめな情報提供
 - (3) 緊急時の対策...校医がバックボーン、
 - (4) 学習保障
 - ①臨時休業でできたこと...GoogleSuiteの操作体験(職員)
 - ②手渡しの課題...保護者が定期的に来校。対面。
 - ③分散登校...半数の児童 午前＋簡易給食、簡易給食＋午後
 - ④オンライン授業配信...欠席児童・学級閉鎖(R3～)
 - ⑤ハイブリッド授業...特休職員の授業を埋める
 - (5)行事保障
 - ①オンライン学習参観...端末は家庭に置いて、保護者参加も
 - ②運動学習発表会...ブロックごと・半日・2種目・保護者も入替
 - ③持久走大会...保護者が密にならないように
 - ④校外学習...縮小や日程変更
 - ⑤修学旅行...会津・磐梯1泊 3度の延長で1月実施。参加100%。



→専用三脚で欠席児童に配信





改革 3 運 営

(3) 働き方改革

H30



R2～

タイムマネジメント

	月	火	水	木	金
8:15	登校・学習準備				
8:20 ～8:35	読書 読み聞かせ	朝学習	集会等	朝学習 (打合せ)	集会等
	移動・朝の会				
8:45 ～9:30	1 校 時				
	休憩・移動				
9:35 ～10:20	2 校 時				
	中休み				
10:45 ～11:30	3 校 時				
	休憩・移動				
11:35 ～12:20	4 校 時				
	給食・歯磨き(12:20～13:05)				
	昼休み・移動				
	清掃(13:30～13:45)				
13:50 ～14:35	5 校 時				
	帰りの会 集団下校 15:00	休憩・移動			帰りの会 委員会クラブ 14:50～
14:40 ～15:25		6 校 時			
		帰りの会			
15:30	職員会議 校内研修 特定委員会 関係部会 15:15～	課外活動		学年会	課外活動
・委員会の場で 運営委員会 ・クラブの場で 推進委員会	<児童下校> ・5校時 開門 14:50～15:00 遊び無し ・6校時 開門 15:40～16:00 遊びあり				
	最終16:00				

	月	火	水	木	金
8:15～	登校・学習準備				
8:20～	朝の会				
8:30～9:15	1 校 時				
9:20～10:05	2 校 時				
10:05～10:20	清掃	集会	清掃		
10:20～10:40	中休み		中休み		
10:45～11:30	3 校 時				
11:35～12:20	4 校 時				
12:20～13:10	給食・片付け				
13:10～13:30	昼休み				
13:30～14:15	5 校 時				
14:20～15:05	一斉下校14:30 集団下校14:45	6 校時			帰りの会 委員会・クラブ
15:05	職員会議 校内研修 各会議等 15:00	帰りの会			
15:10		課外活動 ～16:15	打合せ15分 学年会	課外活動 ～16:15	
～16:45	<児童下校> ・5校時 開門 14:30～14:40 遊びなし ・6校時 開門 15:20～15:30 遊びなし				
	最終15:30				





改革 3 運 営 (3) 働き方改革

1) 時間の捻出①

～H30



R2～

差し引き

朝活動	欠席電話で始業遅滞	→	デジタル化による時間の余裕	－ @
朝行事	15分	→	削減	－15分
中休み	25分	→	清掃15分＋中休み20分	＋15分
※集会があるときは清掃の時間に実施				
昼時間	食＋歯45分＋休25分＋清掃20分	→	食45分＋休25分	－20分
6校時後開門時刻	15：40～16：00	→	15：20～15：30	－10分

1) ①放課後事務処理時間の捻出 ー30分間/日 (5校時の場合 ー20分間)

1) 時間の捻出②

余剰時数 H30 117h → R2 68h → R3 46h → R4 28h

1) ②余剰時間の縮小 H30から-30分間/日 (R3～3学期はすべて5校時)

1) 時間の捻出③

1) ③コロナ禍で軽減された教育活動を今後どう維持していくか。





改革 3 運営 (3) 働き方改革

2)勤務時間の使い方

～H30



R2～

5校時放課後	15：00～事務処理	→	14：40～事務処理～18：45（約4時間）
			※一日2時間以内の超勤として
6校時放課後	16：00～事務処理	→	15：30～事務処理～18：45（約3時間）

2) 意識を変える 空き時間＋4時間or3時間のタイムマネジメント

変わったの？

3)超勤時数の推移

年平均	H30	H31	R2	R3	R4
	44 h	34 h	26 h	28 h	28.5h
	平常	臨時休業	臨時休業	コロナ下	コロナ下

参考 R4 4月、8月、1月 超勤時数減 落ち着いた新学期 ← 長期休業の宿題を完全デジタル化

3) 超勤時数は減少傾向...諸々の対策の方向性は間違っていないことに。

ほんとにそう？



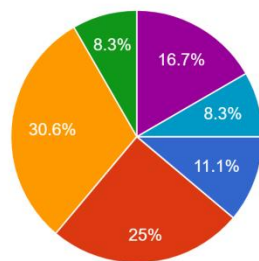


改革 3 運営 (3) 働き方改革

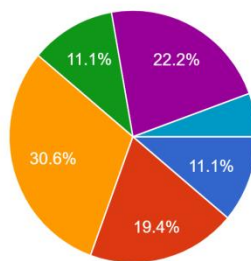
4) 持ち帰り業務改善

R3 持ち帰り業務調査の結果

1学期の家庭での持ち帰り仕事時間の平均時間
36 件の回答

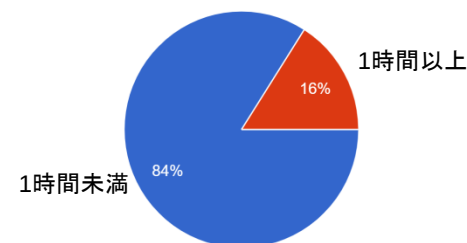


2学期の家庭での持ち帰り仕事時間の平均時間(休日も含めて)
36 件の回答



長期休業日を除く、1日の平均持ち帰り時間はどのくらい?
25 件の回答

● まったくしない
 ● ほとんどしない
 ● 時々する
 ● 30分くらい
 ● 1時間くらい
 ● 2時間くらい
 ● それ以上



1時間以上割合 1学期 25% → 2学期 28% → 3学期 16%



4) 持ち帰り業務の軽減に課題

- ・ 今年度も調査継続
- ・ 2学期にどう減らすか





成果

学校経営

～信頼される学校づくり～

ICTを活用した教育活動

- ICTを日常的に活用した教育活動を実施するための体制整備（ICT推進委員会の設置など）
- 教員のICT活用スキル向上・授業改善の推進
- 情報セキュリティを確保しながら、校務の情報化・効率化の一層の推進

- ・各教科等におけるICTを活用した授業改善
- ・教科以外の教育活動におけるICT活用の推進
- ・端末機器の活用ルールづくり及びICTリテラシーの向上
- ・オンライン学習や家庭学習でのICT活用の推進

- ・ICTを活用した学習評価や成績処理の効率化
- ・各種調査や会議の電子化・オンライン化の推進
- ・既存のメール配信に加え、オンラインによる家庭・地域との連絡手段の構築

緊要の教
解決に
校内研修

新たな少人数
による指導

「新しい生活様式」を踏まえた教育活動

- 日常的な新型コロナウイルス感染症対策の継続
(身体的距離の確保、マスク着用、手洗い、消毒、検温を含めた健康観察、換気 等)
- 学習活動における新型コロナウイルス感染症対策の徹底
(各教科等の授業や部活動、給食等の活動場面に応じた感染症予防対策の実施)
- 臨時休業等を想定した児童生徒の学びを止めない体制づくり
(状況に応じて、自宅等においても学習を継続するためのオンライン学習等が行える体制の整備)

◆教育課程の編成・実施・評価・改善

(カリキュラム・マネジメントの充実)

- 学習指導要領で求める資質・能力の育成に向けた教育課程の編成・実施
- 教育課程の評価につながる学校評価項目の設定と、評価結果に基づく教育課程の改善
- 教職員の働き方改革を踏まえた教育課程の改善

○学びの連続性を意識した教育課程の編成・実施

- ・幼児期の学びや生活を通して育まれてきた資質・能力を踏まえて、小学校での教育活動を展開するスタートカリキュラムの編成・実施
- ・学習指導における小中学校間の情報共有、小学校高学年の教科担任制の一層の推進、小・小中兼務教員による指導など、小・中学校9年間で育成を目指す資質・能力を確実に定着させるための体制づくり
- ・新たな学習や生活への意欲につなげるために、児童生徒が学んだことの振り返りを記録したシートやデータの蓄積・活用

◆確かな学力の育成

- 「はばたく群馬の指導プランII」等を参考にするなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業づくりの推進
- 指導と評価の一体化の充実

◆豊かな人間性の育成

- 児童生徒理解に基づく成長を促す指導の充実
- SC・SSWを活用した教育相談体制の充実
- 道徳教育の全体計画及び別業の活用・見直し
- 人権教育年間指導計画の活用・見直し
- 人権重要課題11項目と学習指導要領の内容等との関連を図った指導の推進

※「人権教育推進資料」参照（R2年3月 群馬県教育委員会）

◆健やかな体の育成

- 運動できる時間・空間・仲間の確保を通じた、身体活動量（身体活動の強さ×行った時間の合計）の増加に向けた取組の充実
- 栄養教諭等を中核とした家庭との連携による食育の推進
- 小・中学校における生活習慣病予防対策基本方針等を参考にしたい望ましい生活習慣の定着を図るための取組の推進

◆特別支援教育の充実

- 「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」に基づく、個々の児童生徒の実態及び配慮等の内容を共通理解するための校内体制づくり
- 切れ目なく必要な支援を継続するための関係機関との連携の推進
- 年間指導計画に基づく組織的、計画的、継続的な交流及び共同学習の実施

働き方の
を考えた
教育活動

「量」と「質」
真に必要な
の充実

子どもに力
教育を付ける
活動

子どもの
を守る 命・安全
教育活動

法令等に
教育に基づく
活動



◆業務改善・組織運営

- 在校等時間記録ファイル等を活用した、客観的かつ適正な勤務時間の記録と集計・分析を通じた、長時間勤務の改善に向けた取組の推進
- 部活動の目的・意義を踏まえた活動時間や休業日の設定と、部活動数の適正化の検討
- 教職員の心身の健康保持増進と、不調の未然防止等のための労働安全衛生管理体制の整備・充実

◆家庭や地域社会との連携・協働

- 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進
- 「地域学校協働活動ガイドブック」を参考に、地域とともにある学校づくりに向けた学校と家庭・地域の目標やビジョンを共有
- 学校と地域の連携・協働による活動の充実に向けた、学校評議員会や学校運営協議会の組織、内容等の工夫・見直し

※「地域学校協働活動ガイドブック」参照（R2年9月 群馬県教育委員会生涯学習課）

◆学校安全・危機管理

- 登下校時の交通安全・不審者対応等、地域や関係機関と連携した取組の推進
- 自然災害等から主体的に身を守るための特別活動、総合的な学習の時間を活用した防災教育の充実
- 危機的な状況が起こらないよう対応する行動（リスクマネジメント）と、危機的な状況が発生した場合・発生した後の行動（クライシスマネジメント）に係るマニュアル等の作成と活用

※危機の内容例

食物アレルギー等によるアナフィラキシー、集団食中毒、熱中症、運動時の事故、新型コロナウイルス等の感染症、不審者、地震、落石、火災、大雨、情報漏洩、施設の保守管理、経路の不備、合理的配慮に対する理解の不足 等



成果

学級経営・生徒指導 ～豊かな人間性の育成～



人権教育の視点

- ◆人権重要課題への理解を深めるとともに、児童生徒一人一人のよさや努力が認められる雰囲気をつくりましょう。

※「群馬県人権教育充実計画（H28年3月県教育委員会作成）」を参照

児童生徒理解に基づく成長を促す指導

- ◆多面的・総合的な児童生徒理解に努め、一人一人のよさや違いを大切に指導の充実を図り、教職員と児童生徒との信頼関係を築きましょう。
- ◆集団の中で、各自もっている可能性を伸ばし、互いに支え合う人間関係を形成したりして、集団の発展や個人の成長を促しましょう。

特別支援教育の視点

- ◆全ての教職員が障害について正しく理解し、それに基づいて個に応じた配慮等についての認識を深め、組織的に対応しましょう。

※「小中学校学習指導要領解説 特別編（H29年7月）」、「発達障害理解パッケージ Ver.4（R3年3月県教育委員会作成）」を参照

校種間・教職員間の連携

- 学年間、幼保こ小、小中、中高など校種間の生徒指導に係る情報の引き継ぎを踏まえた指導・支援
- 個人や集団のよい取組や努力等の情報共有、積極的な称賛

いじめの防止・早期発見

- 各校が策定した「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の充実
- 日々の観察、ICTの活用等による健康観察・いじめアンケート等を通じた児童生徒の変化の早期発見・対応
- 児童生徒の感じる被害性に着目した、いじめの積極的な認知
- ICTリテラシーの向上を通じた、加害・被害等のネットいじめやネット依存の防止

※群馬県「ICTリテラシー向上動画教材」の活用

いじめの解消（再発防止）

- 学校いじめ対策組織を中核とした組織的な対応（抱え込みの防止）
- いじめを受けた児童生徒の安心と安全の確保、不登校、仕返し被害等の未然防止
- いじめを行った児童生徒の背景に目を向けた成長支援（傍観者への支援を含む）

※リーフレット「いじめの解消に向けて大人たちができること」（令和元年度いじめ問題対策連絡協議会）を参照

保護者との支援方法の共有

- 困難を抱える児童生徒の保護者の気持ちに寄り添った支援
- いじめの防止、対応等に関する情報提供を通じた学校と保護者との緊密な連携

全ての児童生徒に対して

生徒指導の三つの機能を生かした日常的な指導・支援

- ◆日々の授業や行事など、学校生活全体において、次の3点に留意し、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指しましょう。

自己存在感

- 児童生徒一人一人のよさや興味・関心を生かした指導の工夫

共感的な人間関係

- 児童生徒が互いの考えを交流し、互いのよさを学び合う場の工夫

自己決定

- 課題の設定や学び方について自ら選択する場の工夫

集団指導と個別指導の充実

- ◆学級経営においては、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用を生かした指導・支援に取り組みしましょう。

集団を育てる

- 互いの考えを認め合う
- 温かな人間関係のもと、互いに支え合う
- 共に成長する喜びを実感する

相互作用

個を育てる

- 一人一人に活躍の場がある
- 成長意欲が高まり、様々なことに挑戦する
- 成功体験を積み重ね、自己肯定感が高まる

気になる児童生徒に対して

特別な援助が必要な児童生徒に対して

学校内におけるチーム支援

- 本人や保護者の意見を踏まえ、関係職員やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等を交えたアセスメント（見立て）に基づく支援方針の決定（短期的～長期的な目標の達成に向け、何を、誰が、どこで、どのように、いつまで行うか）
- 各種校内組織を活用した支援状況の定期的な情報共有及び検証、支援方針の修正
- いじめ、不登校、自殺予防等、生徒指導に関する教職員の資質向上（校内研修等）

学校外の専門家との連携

- 学校に加え、児童相談所、警察、医療機関、市町村の保健福祉部局、教育支援センター、地域の民生委員等との連携による、よりよい解決策の検討
- スクールカウンセラー・スーパーバイザー、特別支援教育専門相談員、法律の専門家であるスクールロイヤー（学校弁護士）の積極的な活用

魅力ある学校・学級づくり

- 学校・学級が楽しく、安心感、充実感が得られる居場所づくりの工夫
- 学級活動、児童会（生徒会）活動、クラブ活動、学校行事等の児童生徒が主体となる自己有用感や社会性を高める活動の推進

※「不登校児童生徒の自立へ向けて（H30年3月 県教育委員会作成）」を参照

SOSの出し方教育の推進

- 様々な困難・ストレスの対処方法を身に付けるためのSOSの出し方に関する教育の実施（意図的・計画的に年1回以上）
- 児童生徒の実態に合った指導内容や場面の工夫

※群馬県中学校「SOSの出し方に関する教育」プログラム（H31年3月 県こころの健康センター作成）の活用

SOSの受け止め体制の整備

- 表情やしぐさ等、児童生徒の変化に気付いた際の積極的な声掛け、チャンス相談
- 困ったときに児童生徒同士で相談し合える雰囲気醸成
- 命や暮らしの危機、児童虐待等に対する迅速かつ適切な対応

※「児童虐待から子どもたちを守るために（H31年2月 県教育委員会作成）」を参照

不登校傾向児童生徒への対応

- 本人の困り感やつまずき等の支援ニーズの早期把握
- 将来の社会的な自立へ向け、本人の中にある強みや成長する力を生かす支援
- 本人の心理的な状態（心のエネルギー）を取り巻く環境等、個々の状況に応じた段階的な支援
- 教室で授業が受けられない児童生徒への学習保障（オンライン授業の配信等）



成果

教科経営・学習指導

～確かな学力の育成～

新しい時代に求められる児童生徒の資質・能力の育成に向け、ICTを積極的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る実現に向けた授業改善を進めましょう。その際、「はばプラⅡ」に示されている問題解決的な授業づくりを大切にしながら、指導と評価の一体化支援を充実させましょう。



の
指導

児童生徒に求められる資質・能力の育成

これまでの
教育実践の蓄積

× ICT
組み合わせ

「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業改善
各教科等の本質に迫る授業の推進
（「はばプラⅡ」の活用）

促進

→ ICT活用

全ての児童生徒の可能性を引き出す

個別最適な学び

指導の個別化 (学習内容の適宜な変更)

○教師が支援の必要な児童生徒に、より適切な指導を行うことで効果的な指導を実現することや児童生徒一人一人の特性や学習意欲、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと

児童生徒の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、児童生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促す

学習の個性化

(学習内容の理解を深め、広げる)

○児童生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで児童生徒自身がより最適な学び（専門性・高度化）となるよう調整すること

→学習履歴（教育データ）を活用した、指導と評価の充実
→児童生徒一人一人に応じた学習課題や教材等、より高度な学びの
機会の提供

協働的な学び

○探究的な学習や体験活動等を通じ、児童生徒同士あるいは、
多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する
学びのこと

教師と児童生徒、児童生徒同士の関わり合いや、自分の意見
や行為を通して理解する実験・実証、地域社会での体験活動、
専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じた
学びの提供

一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる
考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

意見の共有・集約化

・多様な意見を共有、集約することにより、児童生徒相互の思考力・
判断力・表現力等を向上
→児童生徒同士の考えを即時に共有、深い学びの実現

共同で作成・編集

・互いの意見を交流させることにより、新しい視点や価値に気づき、
よりよい表現につなげる
→参加者意識の向上、多様な考えの共有・深化

外部との交流・連携

・遠隔地の専門家や他の学校、海外との交流活動などにより、
学校では学べない学習内容等の充実
→空間的制約を超えた交流、社会との接続

一体的な充実

「はばプラⅡ」の学習過程に応じたICTの活用例

つかむ過程

課題共有・興味喚起・学習の共通化・学習事項の確認 等

- ・本時（単元・題材）の課題や学習計画、前時までの学習内容、学習内容に関する資料等を確認
- ・各自が発見した問題や課題について、師末を通して共有
- ・ドリル型学習支援ソフトや学習履歴等を活用し、既習事項や本時に
つながる内容の確認 等

追究（求）する過程

情報収集・考えの整理・意見交流・表現・制作・発表活動 等

- ・インターネット、写真撮影、音声録音、動画撮影等による情報収集
- ・デジタル教材や撮影した写真等を基に、自己の考えを端末に記入し、考えを整理
- ・共有ソフト等を活用した意見交流・共同制作・発表活動
- ・写真、音声、動画、文章作成、プレゼンテーション等、多様な表現方法を用いた資料や作品の制作
- ・プログラミングを基にした実験や表現活動
- ・他校や外部の専門家等と接続 等

まとめる過程

振り返り・情報共有・意見交流・発表活動 等

- ・まとめや振り返りを記録するなど、学習データを蓄積
- ・共有ソフト等を活用した意見交流・発表活動
- ・ドリル型学習支援ソフトを活用して適用問題に取り組み、学習内容の
理解や定着の具合を確認 等

<校内研修等で御活用ください>

「はばたく群馬の指導プランⅡ」ICT活用Version

URL http://www.nc.gunma-boe.gn.jp/jp/page_id=813

動画配信 「ICT教育イノベーション」オンラインシンポジウム

第1部 「ICTで学校が変わる」 開始決定配信 R3.1.15～5.31

第2部 「ICTで学校を変える」 URL <https://youtu.be/-SHFv1N8nJA>

第3部 「ICTで可能性を広げる」

群馬の教職員スタートアップ動画 「ICTを活用した学び」

URL <https://www.youtube.com/playlist?list=PLEw1MzzXRoq-HU8qK4BdCV5P-jnq6T>



成果 → 信頼 → 自信

1 教職員へ（管理職として）

- ① 強制しない（提案はする。できる人からどうぞ。）...ICT,業務改善
- ② やりたいことを止めない・協力を惜しまない... ICT
- ③ 歩み寄り...業務改善
- ④ ガイドラインの更新と徹底＋行事・授業を止めない姿勢...コロナ禍



- ・ 失敗＝成功。やってみて課題が見えることの大切さ。
- ・ 職員間の対話・コミュニケーションの活性化
- ・ わかる手応え、できる実感→活用の輪が広がる
- ・ これまでできなかったことができるように
- ・ 瓢箪から駒の連続

2 保護者へ

- ① 宿題のデジタル化
- ② 活用によるスキル向上
- ③ ICT活用による成績向上
- ④ 紙のドリル類の削減（家計負担の削減）
- ⑤ 多方向で綿密な情報提供
- ⑥ 代々変わらない諸問題への対応（歩み寄り）
- ⑦ ガイドライン更新・徹底＋授業や行事の保障



- ・ 宿題しなかった子が自分からするように
- ・ 理解に応じた個別の宿題で個別最適な学び
- ・ 自学自習への発展
- ・ 安全確保の上で止めない教育活動への高評価





2 課題

1 職員の年度更新によるブランク

転入職員に合わせてもらう。逆行注意。慣れれば天国。

2 何をどの程度復帰させるか

復活させないのが校長の力量

3 循環を継続する努力

次の校長へ引継ぎの重点事項

新年度3役の新しい分担確認



成果

信頼

改革

自信

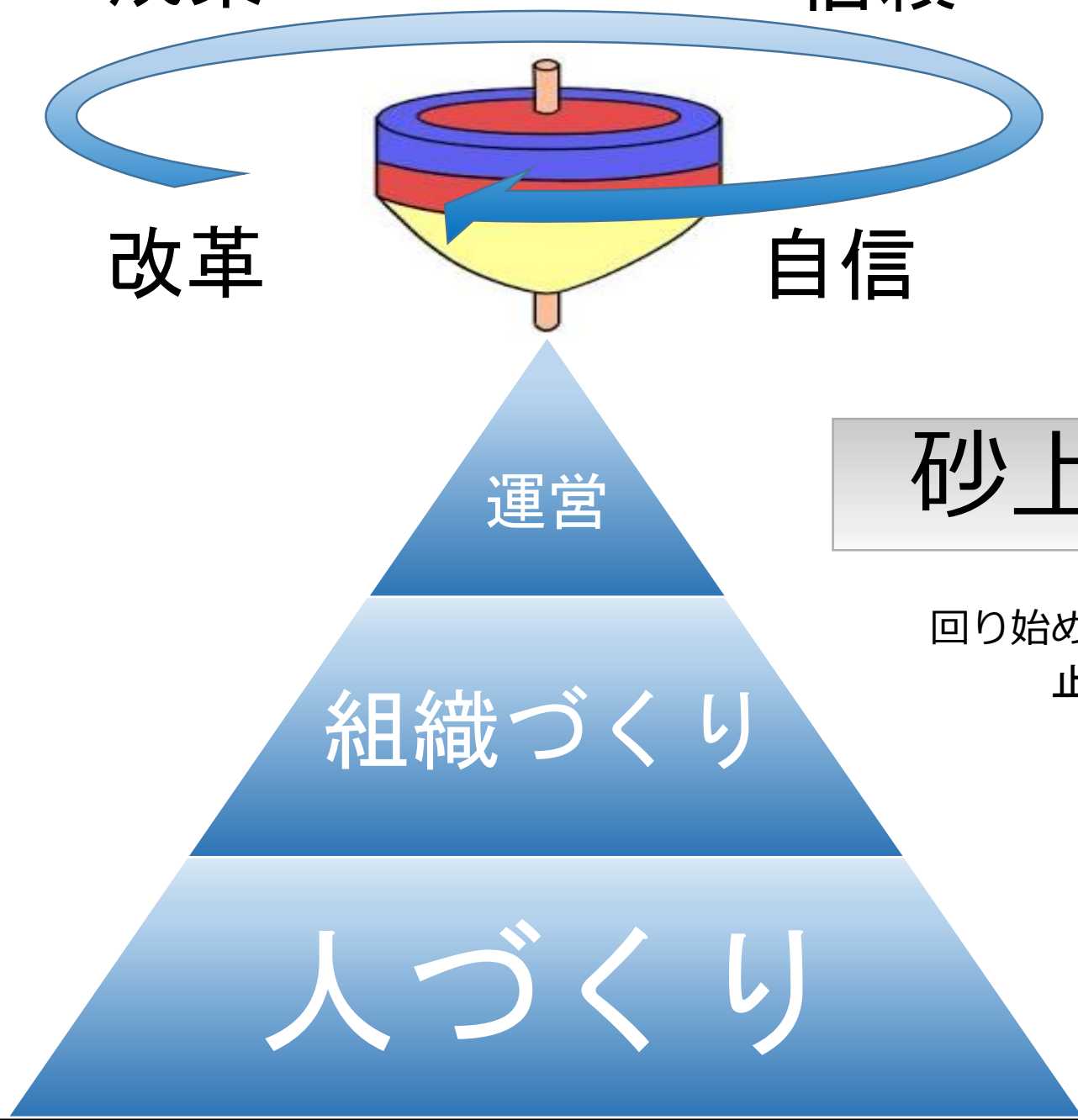
運営

組織づくり

人づくり

砂上の楼閣

回り始めるのは時間を要する
止まるのはあっという間





提言



集約・分析

改革

成果

活性化の工夫
迅速、こまめな連絡・周知
保護者・地域からの視点
地域の教職員の自覚
やるべき事を確実・共働的に
耳を傾ける

学力向上
成就感
肯定感
積極性
本質に触れる
変容
楽しく登校
人間関係構築

年度ブランク
若干の建て直し感

苦言の量と質
学校評価
連絡帳や言葉がけ
変更、お願い反応
提出物・連絡

HP
メール
専用アカウント
透明性
安心感

自信

信頼

評価・整理

伝達・周知

[illegible]

ご静聴ありがとうございました

